

事業番号	09 03 02	事業改善シート（令和3年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 補正予算案	<input type="checkbox"/> 点検
事業名	環境にやさしい農業推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課		
		実施期間	H16 ~	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)							
8つの重点目標							
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進			4-5 地球環境への貢献			

1 現状と課題

目指す姿 ・ これまでの取組	【目指す姿】 ・GAPの取組を基礎に、食品の安全確保や環境保全の取組が盛んに行われ、環境と調和した農業が広く行われる。 ・地球温暖化防止に貢献する技術の導入や農業生産活動が広がる。 【これまでの取組】 ・国際水準GAPの実践に向けGAP指導員を育成し、GAP認証取得を支援。 ・農薬適正使用研修会を開催するとともに、農薬安全使用のリーダーとなる農薬管理指導士を認定。 ・有機農業プラットフォームを設立し、生産者・実需者・消費者・行政の情報交換を行うとともに、勉強会や研修会を開催。				
	令和2年度点検結果 (令和元年度実施事業分) ・ 現状分析	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課 題</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・GAP・環境農業の取組は拡大しているが、面的・組織的な広がりには至っていない。 ・有機農業が拡大する機運が高まっているが、自主的な活動をより促進する必要がある。 ・2050年にゼロカーボン達成するため、農業分野での温室効果ガスの削減等の取組が必要である。 ・新たな病害虫や防除が困難な病害虫が発生しており、的確な防除のために発生予察と防除対策が必要である。 </td> <td> ・GAP指導員による指導活動を強化するとともに、認証取得に向けた組織的な取組を支援する ・有機農業推進プラットフォームの研修会を充実するとともに、会員相互の自主的な活動促進を図る。 ・地球温暖化対策・削減技術を開発するとともに、環境にやさしい農業の面的拡大と炭素貯留技術の実証。 ・侵入警戒調査や発生予察により、生産者への的確な情報発信と防除対策の実施 </td> </tr> </tbody> </table>	課 題	今後の方向性	・GAP・環境農業の取組は拡大しているが、面的・組織的な広がりには至っていない。 ・有機農業が拡大する機運が高まっているが、自主的な活動をより促進する必要がある。 ・2050年にゼロカーボン達成するため、農業分野での温室効果ガスの削減等の取組が必要である。 ・新たな病害虫や防除が困難な病害虫が発生しており、的確な防除のために発生予察と防除対策が必要である。
課 題	今後の方向性				
・GAP・環境農業の取組は拡大しているが、面的・組織的な広がりには至っていない。 ・有機農業が拡大する機運が高まっているが、自主的な活動をより促進する必要がある。 ・2050年にゼロカーボン達成するため、農業分野での温室効果ガスの削減等の取組が必要である。 ・新たな病害虫や防除が困難な病害虫が発生しており、的確な防除のために発生予察と防除対策が必要である。	・GAP指導員による指導活動を強化するとともに、認証取得に向けた組織的な取組を支援する ・有機農業推進プラットフォームの研修会を充実するとともに、会員相互の自主的な活動促進を図る。 ・地球温暖化対策・削減技術を開発するとともに、環境にやさしい農業の面的拡大と炭素貯留技術の実証。 ・侵入警戒調査や発生予察により、生産者への的確な情報発信と防除対策の実施				

2 令和3年度事業内容

補正予算のポイント・主な取組(予定)	事業費の確定による減額 (△3,222千円)
--------------------	------------------------

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし]						No	成果指標	H30年度	R1年度		R2年度末	R3年度目標値	区分(単位:千円)	R1年度	R2年度	R3年度
1	国際水準GAPの取得件数	28	45	↑	44	↓	50	事業コスト	前年度繰越			67,582				
2	化学肥料・化学合成農薬を5割以上削減し、環境保全に資する技術に取り組む面積 (ha)	602	571	↓	621	↑	650		当初予算	122,167	109,142	127,146				
									補正予算	-38,557	-3,488	14,778				
									合計(A)	83,610	105,654	209,506				
									うち一般財源	20,753	20,969	19,242				
5								決算額(B)	75,962	105,925						
								職員数(人)	18.5	18.5	18.5					
成果指標設定理由	①国際水準GAP取得者数から、GAP普及状況が評価できるため。 ※目標値:前年度の増加率と新型コロナウイルス感染症の影響を勘案して設定 ②化学農薬・化学合成農薬を半分に削減して環境保全に資する技術を実践する「環境保全型農業直接支払事業」取組面積から、「環境農業」の普及状況が評価できるため ※目標値:過去5年間の面積伸び率から設定															

事業名	環境にやさしい農業推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	---------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 最終予算		R 2 年度 最終予算		R 3 年度 予 算	
						当初予算	
1	G A P ・ 環 境 農 業 総 合 対 策 事 業						11,069
						補正予算	14,778
		計	13,809	計	12,016	計	25,847
			千円		千円		千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)			
1	G A P の 推 進	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ G A P アカデミー、G A P フォーラムの開催 ・ 国際認証G A P 認証取得支援 ・ G A P 指導員の育成 			
2	環境農業の推進	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信州の環境にやさしい農産物認証制度の運用 ・ 環境にやさしい農業実証事業の実施 ・ 環境実践農家拡大・普及事業 			
3	有機農業プラットフォームの推進	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーガニック・アカデミーの開催 ・ プラットフォーム先進活動支援事業 ・ 有機J A S 制度の推進 ・ オーガニックビレッジの創出 			
4	自然循環型農業定着促進事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田からの温室効果ガス発生抑制技術の開発 ・ もみから暗きょによる炭素貯留の実証 			

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 最終予算		R 2 年度 最終予算		R 3 年度 予 算	
						当初予算	
2	環境保全型農業直接支払事業						35,406
						補正予算	
		計	29,653	計	35,185	計	35,406
			千円		千円		千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)			
1	環境保全型農業直接支払事業	交付金	化学肥料、化学合成農薬の使用を50%以上削減した上で、地球温暖化防止、生物多様性保全の取組に対する交付金			

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 最終予算		R 2 年度 最終予算		R 3 年度 予 算	
						当初予算	
3	植物防疫事業						78,900
						補正予算	
		計	38,083	計	56,483	計	78,900
			千円		千円		千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)			
1	発生予察事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病害虫発生予察ほ場の設置及び調査 ・ 日本植物防疫協会が提供する農薬登録情報等の検索システムへの加入 			
2	病害虫防除所運営費	直接	病害虫防除所の設置及び業務の運営			
3	重要病害虫まん延防止対策事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミバエ等の侵入警戒調査 ・ テンサイシストセンチュウ防除の実施 ・ 薬剤耐性リンゴ黒星病の発生状況調査及び防除対策 			

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 最終予算		R 2 年度 最終予算		R 3 年度 予 算	
						当初予算	
4	農薬安全使用対策事業						1,771
						補正予算	
		計	2,065	計	1,970	計	1,771
			千円		千円		千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)			
1	農薬安全使用対策事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬の適正使用の推進 ・ マイナー品目の農薬登録拡大 ・ 環境モニタリング調査の実施 			